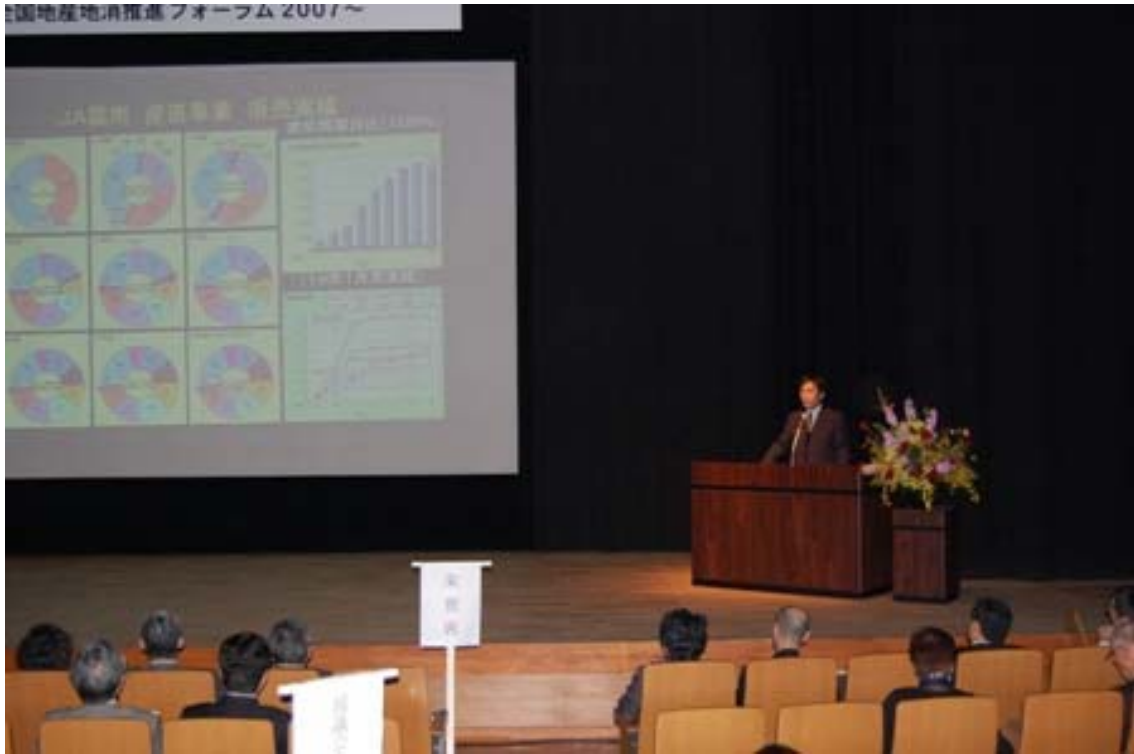


顔が見え、話ができる関係づくり交流会の開催

～ 全国地産地消推進フォーラム 2007 ～

～ ご参加ありがとうございました ～



3月7日（水）、東京都目黒区のこまばエミナース・大ホールにおいて「顔が見え、話ができる関係づくり交流会～全国地産地消推進フォーラム 2007」を開催いたしました。

本交流会は、地産地消活動を各地で推進されている生産者、行政関係者、学校給食関係者、報道機関等幅広い分野から300名余りの参加を得て、盛大に行われました。



福井 照 農林水産大臣政務官

はじめに、主催者である全国地産地消推進協議会会長（東京農業大学教授）の小泉武夫氏、農林水産大臣政務官の福井照氏のご挨拶の後、地産地消優良活動団体の表彰が行われ、農林水産大臣賞、特別賞として全国地産地消推進協議会会長賞、農林水産省関係局長賞の各賞が計8団体に授与され、華やかな雰囲気の中で進めら

ました。また、この表彰団体の選定を行った地産地消推進活動支援委員会委員長（山崎農業研究所事務局長）の小泉浩郎氏の審査講評が行われました。

続いて、小泉武夫氏により「地産地消が地域を変える」と題する基調講演が行われ、参加者の地産地消の重要性が再認識されました。

午後の冒頭は、農林水産大臣賞、特別賞を受賞した3団体から、それぞれの地域における素晴らしい実践活動が発表されました。

最後に、平成18年度に農林水産省の補助事業を活用して、地産地消関係の事業に取り組む2団体から事業成果の報告がありました。

概要は次のとおりです。

【審査講評】

『いのち輝く地産地消』



地産地消推進活動支援委員会委員長 小泉浩郎 氏

農業・農村は、厳しい状況にあるが、そのなかで地産地消は元気な活動が各地に展開している。

第2回目である今回の表彰事業には、全国各地の活動の中から推薦されたいずれも甲乙つけがたい活動であった。審査に当たっては、特に地域の個性を生かした創造的かつ将来性

のある活動に重点をおいた。

その中から、地産地消活動で重要なことは、○出発は身近なことから第一歩を踏み出すこと、○地域イメージの演出、○新しい価値の創造、○若い担い手の台頭、○地産地消はプロ集団、○さらなる発展を、ということである。

【基調講演】

『地産地消が地域を変える』



全国地産地消推進協議会会長 小泉武夫 氏

ひと昔前の日本はとても豊かであった。自然は私たちの身近まで迫り、田や畑には作物が実って豊饒とし、港には魚介が溢れんばかりに水揚げされていた。

しかしそれから50年を過ぎた今の日本は、農業と水産業は凋落が続き、そこから多くの若者が去り、食糧の大半は海外からの輸入に頼っている。

このまま海外に食を頼っていたのでは、BSE や鳥インフルエンザ、遺伝子組み換え、農薬禍、抗生物質禍などを例にとっても、食の安全・安心の問題が根本から問われることになる。また、昨今の地球規模での異常気象は、日本に食糧を供給している国の農水産物の収穫にも影響を与え、とても不安な状況が続き始めている。

このように、日本をとり巻く農と食の問題は、今やとても深刻な状況に陥っている。このような状況が続いている今、国を挙げて地産地消を進めることは、急務であり、この国民の将来を決する重要な問題である。

【受賞者活動事例発表】

○ 奥出雲産直振興推進協議会（島根県）

消費人口の少ない中山間地でＪＡが中心となり、高齢者や女性も参加できる少量多品目生産を可能に下地産地消の展開を図る取り組み。１４の直売所をネットワーク化し、農産物の生産から加工販売に至る体制の整備を行い、雇用の創出、情報発信の拠点として生産者、消費者双方の意識改革を図り、中山間地を活性化。

○ 有限会社シュシュ（長崎県）

専業農家８人で立ち上げた有限会社で、地元農産物の直売所、加工施設、菓子工房、レストラン、農業体験施設、体験教室を持ち、専業農家としての自立を基本に、人材の養成、都市住民との交流、学校や市民団体との食育、団塊の世代を対象とした「農業塾」の開催など創造性に富む活動を展開。

○ 三重県立相可高等学校食物調理科（三重県）

高校生が地域の多様な人たちと連携して、地域の食材を活かした料理の創作・提供、商品開発、食育ネットワークづくり等、地域に溶け込んだ活動で、地域の活性化に寄与するとともに、高校生レストラン「まごの店」は、料理やサービスの実践の場。高校における実践教育の新しいあり方を提案。

【地産地消関係事業の成果報告】

１．地産地消による効果の測定・分析等について

（財団法人都市農山漁村交流活性化機構）

地産地消の効果について、科学的・定量的に測定する手法の確立に向けて、経済学、栄養学、環境学的なアプローチから探るとともに、地域における地産地消活動の推進に向けた評価手法の検討を実施。

２．地場農産物の学校給食等地域内活用促進手法について

（全国農業会議所）

農業委員会が、教育や農業に係る他の関係機関・団体と連携して、地場農産物の学校給食への活用を促進するとともに、食農教育推進のネットワークづくりを目指して、生産者向けガイドライン（指針）の策定を実施。

【各賞受賞者】

農林水産大臣賞受賞者

- 地域振興部門 奥出雲産直振興推進協議会（島根県）

○ 交流促進部門 有限会社シュシュ （長崎県）

特別賞受賞者

○ 全国地産地消推進協議会会長賞

三重県立相可高等学校食物調理科（三重県）

農林水産省生産局長賞等受賞者

○ 経営局長賞 有限会社いずみの里（大阪府）

○ 農村振興局長賞 碧南市農業活性化センターあおいパーク（愛知県）

○ 生産局長賞 農事組合法人道の駅とわだ産直友の会（青森県）

○ 生産局長賞 のら工房農直部会（和歌山県）

○ 生産局長賞 星の郷青空市株式会社（岡山県）

